

北前船と小樽・後志

～歴史文化のルーツを訪ねて～



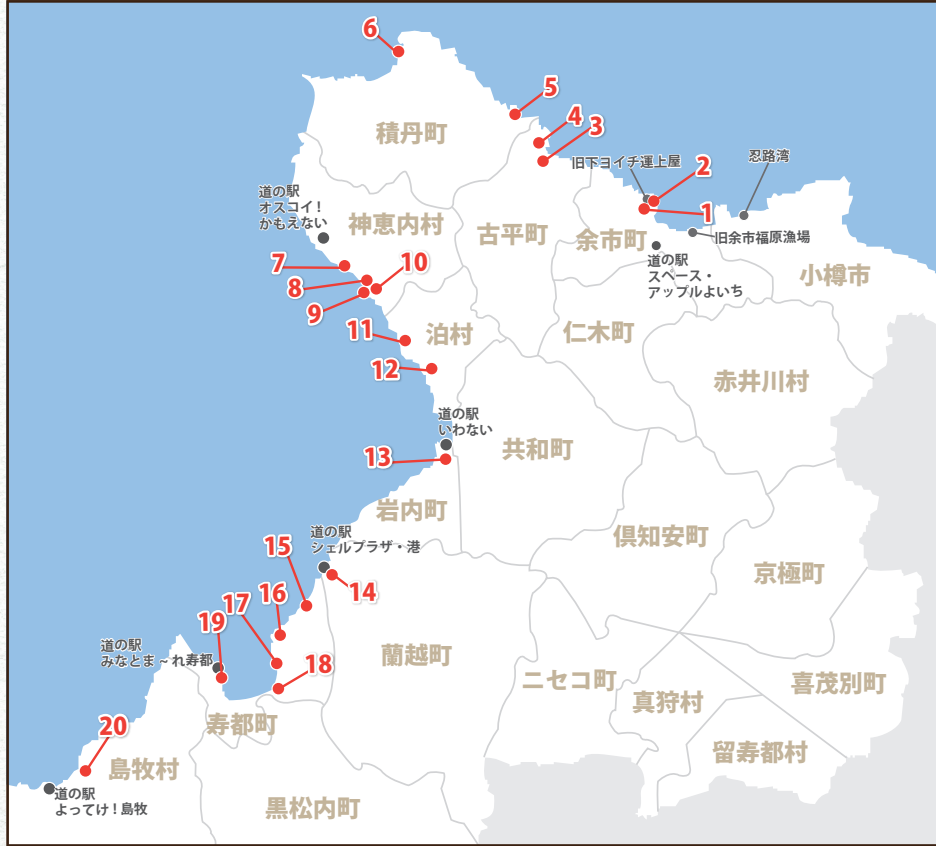
国立大学法人小樽商科大学  地(知)の拠点

〒047-0851 北海道小樽市緑3丁目5番21号 Tel : 0134-27-5482 Fax : 0134-27-5483
HP URL : <http://www.otaru-uc.ac.jp> E-mail : kikaku@office.otaru-uc.ac.jp

小樽の北前船ゆかりMAP



後志の北前船ゆかりMAP



<p>17. 佐藤家 (旧歌乗佐藤家漁場)</p> <p>北前船のゆかりを示す越前産の笏谷石が建物各所に使用。国指定史跡。</p> <p>寿都町 字歌乗町有戸 163</p>	<p>13. 岩内町郷土館</p> <p>船模型や昭和初期の「岩内寄港最後の弁財船」と伝わる写真等が展示。</p> <p>岩内町清住 59-1</p>	<p>9. 弁財洞</p> <p>弁財船が入りししていた場所。国道229号沿いの弁財洞大橋付近。</p> <p>神恵内村 弁財洞大橋付近</p>	<p>5. 鯨伝習館ヤマシメ番屋</p> <p>鯨番屋を保存・活用した体験型施設。銘酒「神威鶴」の展示パネルあり。</p> <p>積丹町 大字三国町字船淵 34</p>	<p>1. よいち水産博物館</p> <p>船模型、船絵馬などが展示。モイレ山の頂上にある町内を一望できる。</p> <p>余市町入舟町 21</p>
<p>18. 橋本家 (旧鯨御殿)</p> <p>北前船のゆかりを示す越前産の笏谷石が建物各所に使用。橋本家の先祖は福井県の廻船問屋。</p> <p>寿都町 字歌乗町有戸 14</p>	<p>14. 稲荷神社</p> <p>社内に船模型が奉納されている。国道沿いの永澤商店の近く。</p> <p>蘭越町港町</p>	<p>10. 弁財洞遭難者慰霊之塔・記念碑</p> <p>北陸と山陰の船乗りの遭難者慰霊塔・石碑。神恵内墓地内にある。</p> <p>神恵内村 字焼場の澤 987</p>	<p>6. 積丹神社</p> <p>船絵馬が6面奉納されている。お食事処みさきの隣。</p> <p>積丹町 大字日司町</p>	<p>2. 茂入神社</p> <p>船絵馬が7面奉納されていた。旧ヨイチ運上家に隣接する神社。</p> <p>余市町入舟町</p>
<p>19. 壽都神社</p> <p>船絵馬が3面奉納されている。境内には船主たちが奉納した鳥居、錨などもある。</p> <p>寿都町 字渡島町 127</p>	<p>15. 海神社</p> <p>小樽・後志地域で最多となる12面の船絵馬が奉納されている。</p> <p>寿都町 字磯谷町能津登 1</p>	<p>11. 盃稲荷神社</p> <p>船絵馬が2面奉納されている。昭和30年の船絵馬が奉納された。</p> <p>泊村 大字與志内 47</p>	<p>7. 巖島神社</p> <p>船絵馬が1面奉納されている。境内の狛犬に奉納者や船名などが記載。</p> <p>神恵内村 大字神恵内村 81</p>	<p>3. 古平民俗資料館</p> <p>船筆筒や錨、船模型などが展示。古平町高齢者複合施設ほへみくらす内に設置。</p> <p>古平町 大字浜町 893</p>
<p>20. 巖島神社</p> <p>境内の狛犬には越前産の笏谷石が使用。村山伝兵衛が修復した弁財財木の像が祀られている。</p> <p>島牧村 字泊 4</p>	<p>16. 鮫取洞稲荷神社</p> <p>船絵馬が2面奉納されていることが最近の調査で確認。</p> <p>寿都町 字磯谷町鮫取洞 21</p>	<p>12. 鯨御殿とまり</p> <p>船模型や伊万里焼などが展示。平成13年に泊村初の有形文化財に指定。</p> <p>泊村 59-1</p>	<p>8. 神恵内村郷土資料館</p> <p>船筆筒や新潟産の焼酎徳利などが展示。神恵内青少年旅行村に隣接。</p> <p>神恵内村 字ブエダウス272-2</p>	<p>4. 巖島神社</p> <p>船絵馬が3面奉納されている。場所請負人岡田家が創建した神社。</p> <p>古平町 大字浜町</p>

<p>10. 旧塩田別邸 (夢二郎)</p> <p>大家家や広海家など北陸の北前船主たちとゆかりが深い塩田回酒店を営んでいた塩田安蔵の別邸。</p> <p>小樽市入船 2-8-1</p>	<p>7. 小樽倉庫資料館</p> <p>小樽倉庫に関する資料を展示。平成14年に小樽倉庫株式会社本社内に開設された私設資料館。</p> <p>小樽市港町 5-3</p>	<p>4. 旧広海倉庫</p> <p>明治22年に石川県加賀市瀬越町出身の北前船主・広海二平によって建造された。</p> <p>小樽市色内 3-10-19</p>	<p>1. 旧小樽倉庫 (小樽市総合博物館運河館など)</p> <p>明治23年から27年に石川県加賀市橋立町出身の北前船主・西出孫左衛門と西谷庄八によって建造。</p> <p>小樽市色内 2-1-20</p>
<p>11. 住吉神社</p> <p>第一鳥居は明治31年に北前船主・大家七平と広海二平が共同で寄進。境内に海運関係者寄進の手鉢等がある。</p> <p>小樽市住ノ江 2-5-1</p>	<p>8. 旧広海二平商店 (おたる瑞穂工房)</p> <p>堺町通りに面した広海二平商店の事務所。明治44年以前に建てられた。現在はアクセサリー専門店。</p> <p>小樽市堺町 5-33</p>	<p>5. 旧右近倉庫</p> <p>明治27年に福井県南越前町河野村出身の北前船主・右近権左衛門によって建造された。</p> <p>小樽市色内 3-10-18</p>	<p>2. 旧大家倉庫</p> <p>明治24年に石川県加賀市瀬越町出身の北前船主・大家七平によって建造された。</p> <p>小樽市色内 2-3-12</p>
<p>12. 龍徳寺金比羅殿</p> <p>龍徳寺本堂に隣接する金比羅殿に船絵馬が8面奉納されていることが近年の調査で確認された。</p> <p>小樽市真栄 1-3-8</p>	<p>9. 旧中村倉庫</p> <p>明治28年に福井県南越前町河野村出身の北前船主・中村三之丞によって建造された。</p> <p>小樽市有幌町 2-2</p>	<p>6. 恵美須神社</p> <p>船絵馬が2面奉納されている。文久3(1863)年に建造された本殿は小樽市指定歴史的建造物。</p> <p>小樽市祝津 3-161</p>	<p>3. 旧増田倉庫</p> <p>明治36年に石川県加賀市橋立町出身の北前船主・増田又右衛門によって建造された。</p> <p>小樽市色内 3-10-19</p>

はじめに

北前船は、近世から蝦夷地（北海道）と上方を海の道でつなぎ、地域社会に物資の流通、文化の伝播、人の交流など様々な面で大きな役割を果たしたことで、高い関心を集めてきました。しかし、明治以降の北海道開拓における意義や、道南以外の北海道の寄港地との関わりはあまり知られていません。

小樽商科大学では、文部科学省の地（知）の拠点整備事業の一環として、北前船の歴史的価値に関する調査研究および観光資源化の取り組みを行っています。この冊子は、これまでの成果にもとづき、小樽・後志地域における北前船のゆかりとその歴史的意義をわかりやすく紹介したものです。

北前船はグローバルに活動を展開しつつ、各地の地域社会の発展に大きな役割を果たしており、歴史的な意義だけでなく、現代的な意義があるといえます。また、移住者が集まり、多様な文化を育んできた北海道にとって、「私たちがどこからやってきたのか」という根源的な問いに深く関わっています。

この冊子が北前船の魅力を再発見するきっかけの一つとなることを願っています。

目次

小樽の北前船ゆかりMAP	一・二頁
はじめに	三頁
一、北前船と小樽	四頁
二、北前船主がつくった石造倉庫	五・六頁
三、小樽の船絵馬	七・八頁
四、小樽のルーツと北前船ネットワーク	九・十頁
五、北前船と後志	十一・十二頁
六、後志の船絵馬	十三・十四頁

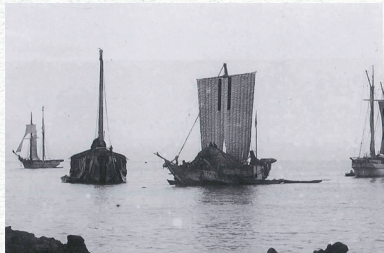
一、北前船と小樽



小樽港。明治36（1903）年。帆柱が1本の弁財型和船と、帆柱が2本の和洋折衷型帆船（合いの子船）、沖合には商船が見える。中央は明治政府がイギリス海軍から購入し、のちに日露戦争に出撃した駆逐艦。様々な船種が混在していることが、北前船寄港地としての小樽の特徴。



忍路湾に停泊する北前船。当時、忍路は鯨の漁場であり、北前船の主要な寄港地の一つだった。湾口が狭く、船舶の停泊場所に適していた。



立岩の前の北前船。伝馬船が横付けされ荷下ろし作業が始まるところ。帆の全体が確認できる貴重な写真。立岩は大正8（1919）年に埋立工事で破壊された。



旧白鳥家番屋（小樽市祝津3-191）明治10年代に建てられた鯨番屋建築。親方の住まいと漁夫の居住部分が一体化した、北海道内でも極めて古い形態をのこす。

江戸時代、北前船はニシンのメ粕や昆布などの海産物、木材などを江差、松前、箱館などの道南の寄港地から上方方面へと積み出し、本州から米、味噌、醤油などの食糧品、紙、蠟燭、衣類などの生活物資を北海道（蝦夷地）にもたらしていました。

安政2（1855）年12月、幕府が積丹半島神威岬以北への婦女子往来の禁を解除したことで、北海道沿岸に居住地が増加し、北前船はさらに北進できるとなりました。さらに、明治2（1869）年、蝦夷地が北海道に改称され、開拓使が設置されると、各地から開拓民が押し寄せ人口が急増していききました。北前船は従来の交易に加え、開拓民の生活を支える生活物資を運ぶという新たな役割を担うようになりました。

小樽港は新たな役割を担うようになった北前船の重要な寄港地の一つとして発展を遂げていきました。北前船主たちは次々に小樽へ進出し、営業倉庫を設立するなど新たなビジネスを展開していきます。北前船は北海道開拓を支え、小樽の発展の基盤をつくったと言えます。

【写真】小樽市総合博物館蔵（下段右端をのぞく）
【参考文献】土屋周三『北海道の開拓と北前船』『写真集 北前船の遺産』（1991年）、越崎宗一『新版 北前船考』（1972年）、『小樽なつかし写真帖 総集編』（2008年）、『小樽に根づく北前船ネットワーク』『The JR Hokkaido』（2016年1月号）

*「北前船」は様々な地域呼称があるが、本書では基本的に「北前船」を使用。特に船型を指す場合は「弁財船」と区別。

二、北前船主がつくった石造倉庫

小樽には現在も多数の石造建築物がのこっており、小樽の特徴的な景観を形成しています。なかでも石造倉庫は店舗などに活用され、小樽の代表的な観光資源となっています。これらの石造倉庫は北前船主たちが営業用倉庫として建てたことには始まり、次々と建造されていきました。

〔参考文献〕越崎宗一「新版北前船考」(1972年)、牧野隆信「日本の商船 北前船とそのふる里」(1985年)、『歴史の建造物の街小樽』(2012年)、『おたる案内人小樽観光大学校検定試験公式テキストブック(改訂版)』(2014年)、竹内勝治「小樽市における石造建築物残存記録集」(2014年)



大家七平 (第四代目)

慶應元(1865)年、石川県加賀市瀬越町生まれ。大家家は二代目が天保12(1841)年に独立船主となって以降、五代目まで海運業に従事。四代目七平は明治24年に小樽に大家倉庫を建設、積極的に汽船への転換を進め、全盛期となった。同29年、逓信省の命によりシベリア諸港との航路を開拓。大正10(1921)年、大家商事株式会社を設立。のちに広海二三郎らとともに日本火災海上保険株式会社を設立し、取締役に就任。明治32年、兄弟の五代目広海二三郎とともに住吉神社の第一鳥居を寄進。昭和4年1月29日、二三郎と同日に死去した。



旧小樽倉庫 小樽市色内2-1-20

明治23年から27年(1890-1894)にかけて、「北前船の里」として知られる石川県加賀市橋立町出身の北前船主・西出孫左衛門と西谷庄八によって建造された、小樽を代表する木骨石造倉庫。寄棟の屋根瓦に鯨をのせた和洋折衷のデザインで、煉瓦造りの事務所を中心に左右対称に展開し、中庭を囲むように倉庫を配置しているのが特徴。現在、北側は小樽市総合博物館運河館として活用。第一展示室には北前船関連の資料が多数展示されている。昭和60(1985)年、小樽市指定歴史的建造物に指定。



西出孫左衛門 (第十一代目)

元治元(1864)年、石川県加賀市橋立町生まれ。西出家は朝倉家の家老の子孫と伝えられ、二代目から船乗りとなった。第十一代孫左衛門の時代に小樽に進出。明治23年に同郷で姉婿の北前船主・五代目西谷庄八とともに北海道初の営業倉庫となる小樽倉庫を設立。同年11月14日に農商務省榎本武揚によって設立認可された。明治38年に山本久右衛門に経営権を委譲。その後、函館に進出し、北洋漁業などを展開した。



西谷庄八 (第五代目)

万延元(1860)年、石川県加賀市橋立町生まれ。明治22年に小樽に進出。同郷の西出孫左衛門とともに小樽倉庫と設立。明治38年に同倉庫を山本久右衛門に委譲後も小樽で西谷海運株式会社を運営するなど様々な活動を展開した。日露戦争後の海運発展に乗り、「東洋一の回漕店」と呼ばれた。天狗山麓の金毘羅大本院は西谷農場の敷地内。市役所車両工場付近にあった千登勢温泉は西谷家の別荘であった。



旧大家倉庫 小樽市色内2-3-12

明治24年に石川県加賀市瀬越町出身の北前船主・大家七平によって建造された。建物の妻面の「ヤマシチ」印、越屋根と入口部分の二重アーチが特徴的。近くの小樽倉庫とともに運河周辺の景観を特徴づけている、小樽を代表する石造倉庫。昭和60(1985)年、小樽市指定歴史的建造物に指定。

北運河周辺



旧右近倉庫

小樽市色内3-10-18

明治27年に福井県南越前町河野出身の北前船主・右近権左衛門によって建造された。妻壁の「//」は右近家の印である「一膳箸」を意味し、船の帆柱に掲げられた船旗にも使用された。明治30年に小樽支店を設置。明治30年代には岩内で炭鉱経営を手がけた。広海家とともに日本海上保険株式会社を創設。平成8年、小樽市指定歴史的建造物に指定。



旧広海倉庫

小樽市色内3-10-19

明治22年に石川県加賀市瀬越町出身の北前船主・広海二三郎によって建造された。倉庫は奥行きのある長方形となっており、採光のため屋根の中央と両側に段差を設けている。出入り口のアーチは壁面のアクセントとなっている。平成10年、小樽市指定歴史的建造物に指定。



旧増田倉庫

小樽市色内3-10-19

明治36年に石川県加賀市橋立町出身の北前船主・増田又右衛門によって建造された。当時、倉庫のすぐ前は海で、手宮駅と港に近く、海陸とも荷物の輸送と貯蔵に最適の場所だった。平成9年に大規模な改修工事が行われた。旧広海倉庫、旧右近倉庫が隣接し、かつての倉庫街の面影をいまに伝える貴重な景観を形成している。平成3年、小樽市指定歴史的建造物に指定。



広海二三郎 (第五代目)

安政元(1854)年、石川県加賀市瀬越町生まれ。明治12年に西洋型帆船を購入、同24年には汽船3隻、同36年には汽船6隻を所有。同37年には貴族院の多額納税議員にも選出された。広海商事株式会社、日本海上保険株式会社を創設。明治32年、兄弟の第四代大家七平とともに住吉神社の第一鳥居を寄進。昭和4年1月29日、七平と同日に死去した。

堺町



旧広海二三郎商店 (おたる瑠璃工房)

小樽市堺町5-33

堺町通りに面した広海二三郎商店の事務所。明治44年以前に建造された。昭和23年に白石工業(株)が取得。現在はアクセサリー専門店となっている。

有幌周辺

旧中村倉庫

小樽市有幌町2-2



明治28年に福井県南越前町河野出身の北前船主・中村三之丞によって建設された。有幌倉庫群の入口に位置するランドマーク的な石造倉庫。平成19年5月、火災のため一部が焼失した。

北前船主ゆかりの回漕店別邸



旧塩田別邸 (夢二邸)

小樽市入船2-8-1

大家家や広海家など北陸の北前船主たちとゆかりが深かった塩田回漕店を運営していた塩田安蔵の別邸。現在、「夢二亭」として活用されている。

小樽倉庫の資料館

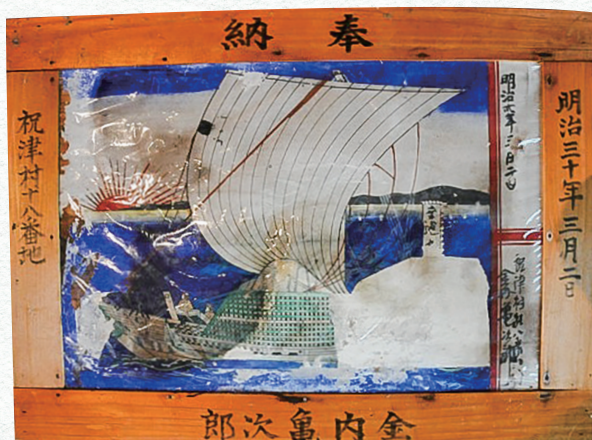


小樽倉庫資料館

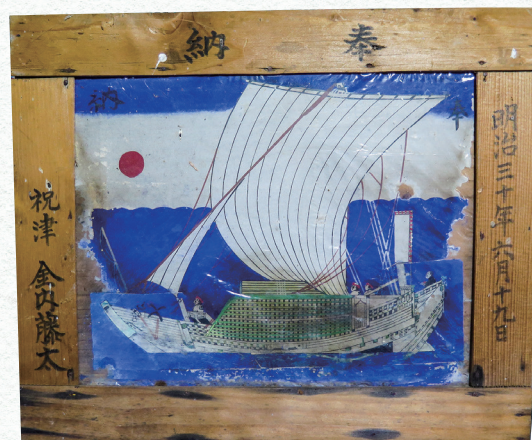
小樽市港町5-3

小樽倉庫に関する資料を展示。平成14年に小樽倉庫株式会社本社内に開設された私設資料館。

祝津・恵美須神社の船絵馬



「祝津村十八番地」の「金内亀次郎」が明治30年3月2日に奉納したもの。



「祝津 金内藤太」が明治30(1897)年6月19日に奉納したもの。



祝津・恵美須神社本殿内。絵馬が16点奉納されたことが記録されている。現在は4点掲げられており、うち船絵馬は2点。



祝津・恵美須神社本殿（小樽市祝津 3-161）現在の本殿は文久3(1863)年に創建。棟梁とされる小林萬吉は越後・寺泊出身。創建時から海の守り神である恵美須を祀っていることから、船絵馬が奉納されたと考えられる。

祝津・恵美須神社の船絵馬

No	画題	奉納年月日	奉納者など	寸法 (mm)
1		明治30年3月2日	祝津村十八番 金内亀治郎	325×440
2		明治30年6月19日	祝津 金内藤太	290×350

奉納時期は明治20年代後半～30年代に集中している。奉納者は地元が多い。龍徳寺金比羅殿のものでは新潟が1名含まれている。

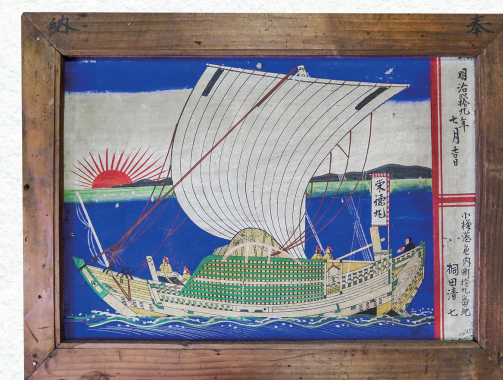
龍徳寺金比羅殿の船絵馬

No	画題	奉納年月日	奉納者など	寸法 (mm)
1		明治27年5月1日	桜井剛	313×418
2		明治27年7月15日	新潟県新潟市寄江町 川崎飛夫	406×530
3	栄徳丸	明治29年7月吉日	小樽港色内町19番地 桐田清七	310×414
4	祝丸	明治35年吉月	北海道志留小樽芝町川番地 海上安全 飯山栄次郎	260×386
5		明治29年2月16日	小樽郡量徳町17番地 菊池憲	310×417
6			阿部亀一郎 阿部けき	262×328
7	宝徳丸		小樽港有幌町 今村善右衛門	264×384
8				228×290

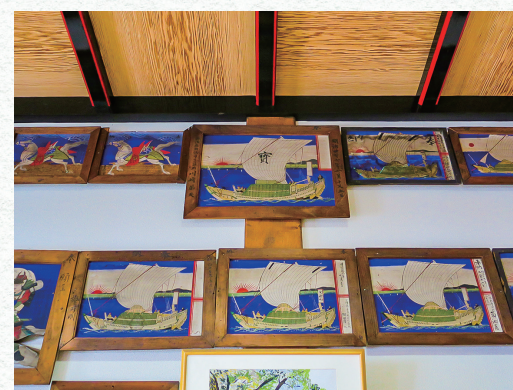
龍徳寺金比羅殿の船絵馬



「新潟県新潟市寄江町 川崎飛夫」が明治27年7月15日に奉納したもの。



「永徳丸」の船絵馬。「小樽港色内町19番地 桐田清七」が明治29年7月吉日に奉納したもの。



龍徳寺金比羅殿の内部。様々な絵馬が奉納されている。うち船絵馬は8点。



「宝徳丸」の船絵馬。「小樽港有幌町 今村善右衛門」が奉納したもの。奉納年不明。



龍徳寺金比羅殿 龍徳寺本堂に隣接。龍徳寺は安政4(1857)年の開創当時から龍神を祀る龍宮殿が設置され、明治22(1889)年から金比羅殿として仏と共に鎮守されていることが特徴。金毘羅は海の守り神として小樽の海運業者に信仰されたため、船絵馬が奉納されたと考えられる。

北前船は小樽の発展に大きな役割を果たしましたが、目に見える痕跡は少ないため、船絵馬は貴重な存在だと言えます。近世以降、北前船主や船頭たちは航海の安全を祈願し、寄港地の神社などに船絵馬を奉納しました。船絵馬は、船が精緻に描写され、奉納者の名前や出身地、奉納年、絵師名などが記載されていることもあるため、歴史資料として重要です。また、鮮やかな色彩で描かれており、美術品としての魅力もあります。現在、小樽では龍徳寺金比羅殿と祝津・恵美須神社本殿に船絵馬が奉納されていることが確認されています。

三、小樽の船絵馬

【参考文献】越崎宗一「祝津の恵美須神社」『月刊おたる』(1974年8月号)、『龍徳寺開創百五十年誌』(2008年)、『歴史的建造物の街小樽』(2012年)

四、小樽のルーツと北前船ネットワーク

北前船がつないだ人・モノ・文化などのネットワークは、小樽の様々な分野のルーツに深く関わっています。ここでは、銀行、銭湯、菓子店、民俗芸能、県人会のルーツと北前船の関わりの一端を紹介します。北前船ネットワークによる様々な人のつながりや物資、文化が小樽の基盤を築いていったことがわかります。

【参考文献】『北陸銀行創業百年史』（1978年、渡辺鶴蔵「明治大正昭和の三代を逞しく働き抜いた九九才の女傑 河本コんさんの巻」（私家版、1978年）、「小樽学」（2010年11月号）

【銀行】



北陸銀行小樽支店（小樽市稲穂2丁目8番11号）



旧第十二銀行稲穂出張所〔現：栗原恒次郎商店〕（小樽市稲穂4丁目3番1号）

北陸銀行

北陸銀行は北前船との歴史的なつながりが深い。北陸銀行の前身の一つ十二銀行は本店が富山市にあり、明治32（1899）年に小樽支店を開設。北海道で支店を展開できた背景には富山県をはじめ北陸出身者とのつながりがある。昭和元（1926）年には十二銀行の総預金と総貸出金の約4割は北海道が占めた。富山の北前船主・馬場道久は十二銀行の監査役を務めている。

第四十七銀行小樽支店

（小樽市色内1丁目6番25号）

明治11年、千葉県で第四十七国立銀行として設立。同24年、富山県に移転。同31年、第四十七銀行と改称。同40年、小樽支店を設置。当時、本店は富山市で支店は富山県内に4店のみであった。小樽支店は県外初の支店であり、小樽と富山の結びつきの強さを示す。昭和14年に十二銀行、同18年に中越銀行と合併し、新たに設立された北陸銀行となった。平成3（1991）年、小樽市指定歴史的建造物に指定。



【菓子店】



杉本花月堂

嘉永4（1851）年に越後・新発田藩（現・新潟県）で杉本次郎吉によって創業された。明治36（1904）年、三代目次郎が小樽に渡り、翌年杉本花月堂を開業。小樽を代表する菓子店に成長した。当時、新発田は北前船の寄港地で小樽とつながりがあった。昭和35年に倒産し、現在は創業家とは別会社が店名を引き継いでいる。

小樽新倉屋



創業者の新倉キク（旧姓：佐井）は、著名な北前船主・銭屋五兵衛を輩出した石川県金沢市粟ヶ崎の出身。小樽に移住して明治28（1895）年に創業。食糧雑貨店を経て、二代目が菓子販売を始めた。明治37年の色内大火後、花園町に移転。花園団子は昭和11年頃に販売開始し人気商品に。



あまとう

昭和4年、石川県加賀市大聖寺吉崎出身の柴田昇・キヌ夫妻によって小樽で食堂とばんじゅうの店として創業。柴田昇の実家島中家は加賀から岩内、利尻島を経て小樽へと北前船の寄港地をたどるように各地に移動している。昭和30年代半ばにマロンコロイヤークリームゼンざいが人気となった。



【民俗芸能】



高島越後盆踊り

明治初期に小樽の高島に移住してきた新潟県北蒲原郡紫雲寺町の人たちを中心に故郷の盆踊りを踊ったことがルーツで、色艶のある踊りと唄が特徴的。昭和54年、高島町会の文化部が中心となり高島越後盆踊り保存会が発足。平成13年には小樽市指定無形民俗文化財に指定。同16年にはこの盆踊りの故郷・新潟県北蒲原郡藤塚浜の人たちが高島に来て一緒に踊るなど交流を深めた。

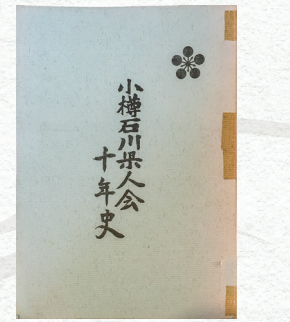


潮太鼓

第1回潮まつりの立ち上げの際、潮踊りとともにまつりに欠かせない要素として考案された。企画委員の米谷祐司、藤森茂男らが龍宮神社で太鼓みだれ打ちをしていた寺本市次郎に太鼓創作を依頼。寺本は故郷の石川県に伝わる「左義長太鼓」を基礎に潮太鼓のリズムを創作した。「おたる潮太鼓プロフィール」では、潮太鼓の発祥を北前船による小樽と北陸のつながりで説明している。

【県人会】

本州各地から移民が集まる北海道では、出身地ごとに親睦を深める会が結成された。小樽で最も勢力があったのは東北・北陸諸地域の団体で、日本海を通じた小樽と北陸の人的つながりの強さが伺える。新潟県では新潟県人会、常磐会（柏崎高等女学校出身者）など、石川県では石川県人会、能登会（能登半島出身者）など複数の団体があり、一部は現在も継続している。



【参考文献】「県人会の歴史（上）（下）」『小樽学』（2010年6-7月号）、『新高島町史（増補改訂版）』（2006年）

五、北前船と後志

後志沿岸地域にはかつて北前船の寄港地だったところが多数あり、各地に様々なゆかりのこっています。ここでは、船筆筒や伊万里焼といった北陸や東北、瀬戸内海などの北前船寄港地からもたらされた産物、越前産の笏谷石が用いられた建造物、北前船関連資料が展示されている施設などを紹介します。

【余市町】



船模型 500石積弁財船の3分の1サイズの模型。材料は実物と同様にスギ、ヒノキ、ケヤキ等が使用されている。設計製作は酒井久蔵。



よいち水産博物館(余市町入舟町21)には、船模型、船絵馬など、北前船関連の資料が展示されている。



諸国御客船帆形 明治29(1896)年。取引先の船の帆の特徴を一覧にまとめたもの。帆の形状に切り取って貼り付けられた紙の内部に、船名、船主名、船長名、入港日、屋号、積載量、反数(帆の大きさ)等が記載されている。

【古平町】



古平港 年代不明。多数の船舶が停泊している。【古平町史編さん室蔵】



船筆筒 古平民俗資料館(古平町大字浜町893番地)に展示。同館は古平町高齢者複合施設ほほえみくらす内に開設。古平町民から寄贈された多数の民俗資料の中に、船筆筒や錨、船模型など北前船関連資料がある。

【神恵内村】



弁財淵 当時、弁財船が入り出る淵を弁財淵と呼んでいた。松浦武四郎「再航蝦夷日誌」に「弁オトマリ」と記載されている。



新潟産の焼酎徳利(明治期) 神恵内村郷土資料館(神恵内村大字神恵内村)には神恵内の歴史文化に関する資料が約400点展示されている。北前船関連資料として船筆筒や尾道産の許徳利などがある。



弁財淵遭難者慰霊塔・記念碑(神恵内墓地内) 北陸と山陰から来た5隻の弁財船が大時化に遭い乗員21名が死亡。明治24年8月4日に慰霊塔と記念碑が建立された。記念碑には船名と犠牲者名が記載されている。慰霊塔は弁財船の横柱(ケヤキ)で作られた。当初、弁財淵岬に建立されたが昭和61(1986)年8月20日に記念碑の横に移転。

遭難船名と出身地・犠牲者数

船名	出身地	現在の地名	犠牲者
喜宝丸	越中国石田村	富山県黒部市	9名
正運丸	加賀国安宅町	石川県小松市	2名
焼天丸	隠岐国美田村	島根県西ノ島町	4名
神通丸	越中国東岩瀬町	富山県富山市	3名
栄宝丸	加賀国黒崎村	石川県加賀市	3名

神恵内村役場提供資料を元に作成。



鯨伝習館ヤマシメ番屋(積丹町大字美国町字船淵39番地) 鯨番屋であったヤマシメ福井邸を保存・活用した体験型鯨場施設。銘酒「神威鶴」の展示パネルがある。

【泊村】



鯨御殿とまり(泊村59-1) 明治27年に漁場経営者の川村慶次郎によって建てられた「旧川村家番屋」と、大正5年頃、武井忠吉によって建てられた「旧武井邸客殿」を移築・復元した施設で、平成13(2001)年に有形文化財に指定。日本海交易によってもたらされた陶磁器など各地の産物が展示されている。

【寿都町】



佐藤家(旧歌棄佐藤家漁場)(寿都町字歌棄町有戸163) 寿都町内には越前産の笏谷石が各所の建物等に使用されるなど、北前船のゆかりが濃厚に残る。



笏谷石 佐藤家の基礎石(二段目)、東石などに使用されている。

【岩内町】



岩内港 年代不明。多数の弁財船が整然と停泊している。【岩内町郷土館蔵】



岩内町郷土館(岩内町清住5-3) 昭和46年開館。船模型、船筆筒などが展示されている。「岩内寄港最後の弁財船」(昭和初期)と伝わる写真が紹介されている。



「岩内寄港最後の弁財船」(昭和初期)と伝わる写真。【岩内町郷土館蔵】

【蘭越町】



稲荷神社社殿内の船模型。稲荷神社(蘭越町字港町27)は天保期に福山町の西川順兵衛が磯谷場所の請負人になった際に鮭豊漁祈願のため私財で小祠を建てたのが創祀。

【島牧村】



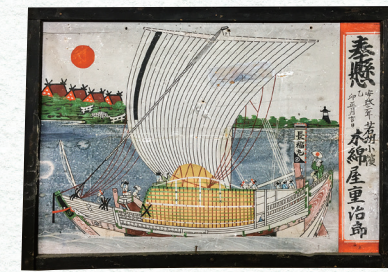
巖島神社(島牧村字泊4番地)には笏谷石製の狛犬がある。村山伝兵衛が修復したと伝わる弁財塔の木像が祀られている。



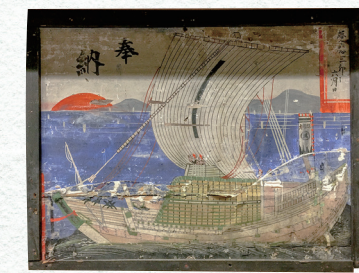
狛犬 村指定文化財。笏谷石が使用されているが、風化が進み刻字などは確認できなくなっている。年代不明。

六、後志の船絵馬

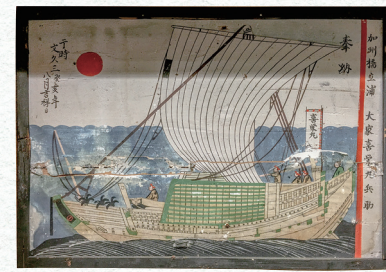
【余市町】



「長福丸」の船絵馬 安政 2(1855)年正月奉納。奉納者は「若州小浜 木綿屋重治郎」。木綿屋は若狭小浜(現・福井県小浜市)の北前船主・志水家の屋号で、幟の印は同家の家紋。重治郎は福井県河野村出身と推定される。同村は右近家の出身地。寸法 405×575



「喜栄丸」の船絵馬 文久 3(1863)年 8月奉納。奉納者名は「加洲橋立浦 大家喜栄丸兵助」。橋立は小樽倉庫を創設した西出孫左衛門らの出身地。寸法 340×490



「喜宝丸」の船絵馬 奉納者は木下漁業部・木下寅吉。奉納年は不明。喜宝丸は木下寅吉の第二の持船で明治 40 年頃に就航したと伝わる。厳島神社に奉納されたもので、現在は社務所内に展示。境内の狛犬は明治 44 年に木下寅吉が奉納したもので、関連情報が記載されている。寸法 578×785



茂入神社(余市町入舟町) 文政 3(1820)年から場所請負制廃止の明治 2(1869)年まで、余市場所請負人であった竹屋林家が弁財天を祀った神社。旧下ヨイチ運上家に隣接。絵馬 8 面が奉納され、そのうち船絵馬 7 面はよいち水産博物館に展示されている。

【古平町】



「和合丸」の船絵馬 嘉永 4(1851)年 9 月奉納。後志にのこる最古の船絵馬。帆印から運上屋岡田家の所有船とわかる。作者は落款から三代吉本善京と推定。寸法 730×987



厳島神社(古平町大字浜町)もともと古平場所請負人岡田家が宝暦元(1751)年に創建した恵比須神社で、弁財天も合祀していた。明治 10 年頃に厳島神社に改称した。同神社には 3 面の船絵馬がこのこる。

【積丹町】



「和合丸」の船絵馬 明治 31 年 4 月 22 日奉納。奉納者は「日司村鰯釣連中」。寸法 312×418



積丹神社(積丹町大字日司町) 万延元(1860)年、稲荷神社として創建。明治 20 年、社名を積丹神社に改称した。船絵馬が 6 面奉納されている。

【神恵内村】



「喜宝丸」の船絵馬 奉納者は木下漁業部・木下寅吉。奉納年は不明。喜宝丸は木下寅吉の第二の持船で明治 40 年頃に就航したと伝わる。厳島神社に奉納されたもので、現在は社務所内に展示。境内の狛犬は明治 44 年に木下寅吉が奉納したもので、関連情報が記載されている。寸法 578×785



厳島神社(神恵内村大字神恵内村) 慶長 8(1603)年創祀。承応元(1652)年、漁業や航海の安全を祈願し、安芸国宮島の厳島宮、播磨国海神社、讃岐国金毘羅宮から諸神を祀った。明治 4(1871)年、社名を厳島神社に改称し、現在に至る。

【泊村】



「永宝丸」の船絵馬 奉納年不明。奉納者は「右近仁三郎」で、明治 12 年から 17 年にかけて永宝丸の船頭。帆印や幟の意匠が両方とも同じであり、大坂近江屋栄次郎名義の右近家の持船であると推定。寸法 570×771



盃稲荷神社(泊村大字與志内 47 番地) 文化 4(1807)年に田村豊質がサカツキに創祀した稲荷神社と、享保 15(1730)年に與志内の漁場に田村重孝が創祀した神社が明治 40 年に合併して創祀。昭和 30 年に現在地に移転した。船絵馬が 2 面奉納されている。

【寿都町】



「廣徳丸」「廣福丸」「昇徳丸」の船絵馬。明治 13(1880)年 5 月奉納。奉納者は、「加賀国瀬越村 角谷與七 廣海彦太郎 廣海喜平」。寸法 770×1010



壽都神社(寿都町字渡島町 127) 寛永 4 年、筑紫国の弁天丸が寿都湾で遭難した際、船主と乗員が救助されたことに感謝し、船中の弁天神を岩崎町の一角に建てた祠が創祀。大正 14 年、壽都神社に改称した。船主たちが奉納した鳥居、錨がのこり、船絵馬 3 面が奉納されている。



「大神丸」の船絵馬。佐藤友太郎が明治 16 年 8 月 10 日に奉納したもので。



鮫取潤稲荷神社(寿都町磯谷町鮫取潤 21) 船絵馬が 2 面奉納されていることが最近の調査で確認。

所在地別船絵馬数 (後志)

所在地	神社名	絵馬	船絵馬	備考
寿都町字渡島町	壽都神社	14	3	
寿都町字歌楽町有戸	厳島神社	9	4	注 1
寿都町字歌楽町美谷	稲荷神社	1	1	
寿都町字歌楽町横潤	稲荷神社	2	1	
寿都町字磯谷町島古丹	海神社	63	13	
寿都町字磯谷町鮫取潤	稲荷神社	2	2	注 2
蘭越町字港町北尻別	稲荷神社	2	1	
泊村大字堀株村	稲荷神社	2	2	
泊村大字泊村	泊稲荷神社	1	1	
泊村大字與志内村	盃稲荷神社	3	2	
神恵内村大字神恵内村	厳島神社	1	1	
神恵内村大字珊内村	稲荷神社	5	3	注 3
積丹町大字来岸町	神威神社	6	4	
積丹町大字日司町	積丹神社	10	6	
積丹町大字入舸町	稲荷神社	15	5	
積丹町大字美国町	美国神社	12	4	注 4
古平町大字浜町	厳島神社	3	3	
古平町大字沢江町	恵比須神社	7	2	
余市町入舟町	茂入神社	8	7	注 5
合計		166	65	

北海道開拓記念館の調査報告書(1993 年)を元に今回の調査結果を反映させ作成。船絵馬は、弁財船、洋式帆船、蒸気船、漁船を含む。

【注 1・3・4】参考文献(1993 年)時の記載情報。

【注 2】今回の調査で新たに確認できたもの。

【注 5】船絵馬(7 点)はよいち水産博物館で展示中。